



のブリッジ余談 (第 126 回)

トータルトリックの法則はどれだけ正確か？

2020.2.21

トータルトリックの法則は 1966 年にフランスの Jean Rene Vernes が Bridge Moderne de la Defense という本で発表したのが最初です。その後同じ著者が Bridge World 誌 1969 年 6 月号に寄稿してアメリカで知られるようになったようです。その結果に強く影響され、応用した Marty Bergen Larry Cohen ペアがアメリカの試合でよい成績を収め、Larry Cohen が 1992 年に書いた To Bid or Not To Bid という本でよく知られるようになりました。前回も少し説明しましたがトータルトリックの法則とは

「どんなハンドでも両側で取れるトリックの合計は両側のトランプの合計に等しい」

というものでした。しかしこれはどれだけ正確なのでしょう？

Jean Rene Vernes の本では 1954 年から 1963 年にかけての世界選手権でプレイされた 340 のハンドの統計からトランプ合計数との差は

差	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5
ハンド数	3	20	65	113	94	30	12	2	1

(出典 Bridge Moderne de la Defense)

となっています。これをどう見るかは人によるでしょうが、± 1 の範囲で 80 % 合っていると いえます。これはおどろべき一致といってよいと思います。絵札点で考えて 26HCP あれば 9 トリック取れるというような推定と比べて遜色がない、いやそれよりも信頼できると言ってもよいと私は思います (絵札点の方の統計については調べた人がいませんが)

トータルトリックの法則は論議を招くところのようで、Matt Ginsberg という人がコンピュータシミュレーションを使って約 44 万ハンドを調べて、Bridge World 1996 年 11 月号に結果を掲載しています。結論として競り合いビッドを 70% 以上当てる自信のある人は法則に頼らなくてよいと書いています。裏返せば、その自信がない人はトータルトリックの法則に従ってビッドした方がよいということになります。

日本の教科書にトータルトリックの法則についてどう書かれているでしょう。ブリッジ教師会が発行している「5 枚メジャー中級コース」87 頁に言及があります。

法則の説明がされた後、『…切札の内容による修正が必要です。切札の AK は 1 点、QJ は 0.5 点、オポーネントの切札についても同様ですが、修正しなければなりません。全て 0.5 点でトータルから 0.5 点引くというという方法を採用する人もいます。どちらが正しいか微妙なところ。…厳しい競り合いにトータル・トリックの法則を取り入れたければ、まずプレイの腕を上げることです。…競り合いはパートナーシップの見せ所なのです。完璧にこなせるペアはいません。』

となっています。修正の方法に、1 点とか 0.5 点とか書かれていますが意味不明です。またパートナーシップが大事だというのは別に競り合いでなくとも必要だというのは当た

り前の話です。この本の著者はこの法則にあまり好意的ではないようです。(続く)

なお Ginsberg による統計は次の表です。これを見ても ± 1 の範囲に 90% ほどのハンドが法則に合致しているようです。

合計トランプ数	ハンド数	平均	誤差
14	46944	-0.15	0.63
15	47281	-0.14	0.64
16	120525	0.1	0.7
17	102184	0.02	0.75
18	69792	-0.01	0.83
19	37561	-0.22	0.87
20	15845	-0.5	0.99
21	5041	-0.89	1.2
22	1286	-1.31	1.48
23	237	-1.78	1.83
24	45	-2.22	2.27
合計	446741	-0.05	0.75

(出典 Bridge World 1996 年 11 月号)

表の見方

左の表の合計トランプ数とは両サイドの 1 番長いスートの合計枚数のこと。例えば 16 となっていれば例えば両サイドで 4-4 フィット同志がむきあっているということ。そのようなハンドが 120525 あったということです。そして平均が 0.1 と書いてあるのは両サイドで取れるトリック数が平均 16+0.1 だったということ。さらに誤差とは合計トランプ数と実際に取れたトリック数とは当然差があり、その差の平均値です。

下の表ではその差についてもっと詳しく分析しています。合計トランプ数が 16 のとき取れたトリック数の合計との差が丁度 0 になるハンドが 42.4%、差が -1 だったのが 20.7%、+1 だったのが 26.3% ということを表しています。これを見ると合計トランプ数が 21 を超えるとずれが大きくなっていくようですね

L \ T	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4
14	0.001	0.006	0.048	0.270	0.466	0.182	0.024	0.002	0.000
15	0.001	0.006	0.050	0.266	0.457	0.192	0.026	0.002	0.000
16	0.001	0.005	0.038	0.207	0.424	0.263	0.055	0.007	0.001
17	0.001	0.006	0.052	0.235	0.394	0.245	0.058	0.007	0.001
18	0.001	0.008	0.071	0.250	0.360	0.228	0.069	0.012	0.001
19	0.001	0.013	0.107	0.289	0.338	0.188	0.054	0.010	0.001
20	0.002	0.031	0.164	0.315	0.299	0.137	0.044	0.007	0.000
21	0.007	0.074	0.240	0.319	0.233	0.101	0.023	0.003	0.000
22	0.027	0.137	0.286	0.302	0.177	0.054	0.016	0.001	0.000
23	0.042	0.257	0.292	0.262	0.122	0.021	0.000	0.000	0.000
24	0.111	-0.333	0.289	0.222	0.022	0.022	0.000	0.000	0.000
全体	0.001	0.009	0.062	0.245	0.400	0.244	0.051	0.007	0.001

(出典 Bridge World 1996 年 11 月号) L: トランプ数合計 T: トリック数合計との差